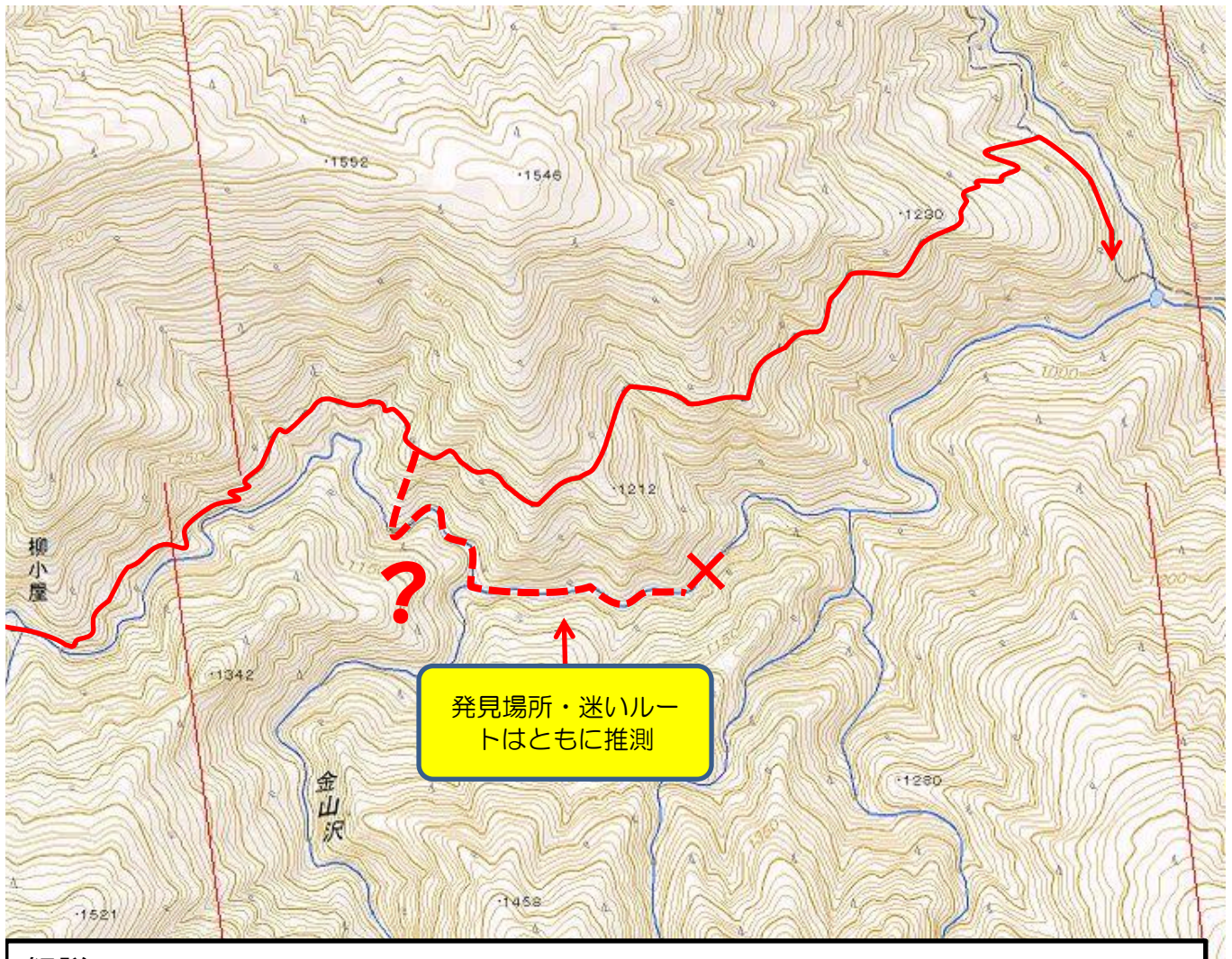


十文字峠遭難(2013年6月)

77歳単独。支尾根に迷い込み、沢に出た。そのまま沢を下ったが、途中で動けなくなり、4日目に偶然釣り師に発見された。



解説

柳避難小屋から赤沢谷出合の間で転倒して2mほど滑落し、右大腿部を打撲。ストックにすがりながら下山したのだが、今度は支尾根に迷い込み沢に下りてしまった。沢に下りるとき岩場を2mほど飛び降りたため登り返すことができず、危険があることを知りつつ沢を下った。沢の中でも転倒したり、水没したりして疲れ切ってしまう、ビバークを決意。2日目に「sos、股ノ沢、救助乞う」のメモを川に流す。幸い、「sos」のメモを釣り師が発見し、遭難者を発見した。奇跡的な救助であった。

道に迷った支尾根は特定できないため推測で記載させていただいた。

転倒、打撲といった小さなアクシデントにより冷静さがなくなり支尾根に迷い込んだ可能性は高い。年齢的にも動き回るのは難しいが発見・救助されたことは奇跡というほかない。